

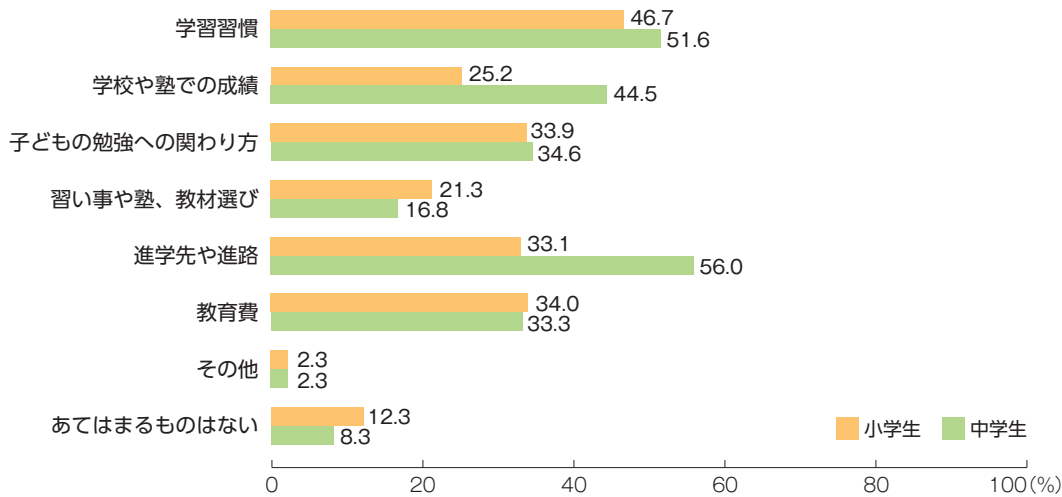
9 保護者の関わり—子どもの学習に関する悩みや気がり—【保護者調査】

子どもの学習に関する悩みで、小中学生を通じて高いのは「学習習慣」で5割前後。「学校や塾での成績」「進学先や進路」に関する悩みは、中学生で大幅に増加。

保護者の子どもの学習に関する悩みや気がかりをみると、小中学生であまり変化がないのは「学習習慣」「子どもの勉強への関わり方」「教育費」である。一方、小学生から中学生にかけて悩みの変化が大きいのは「学校や塾での成績」(小学生25.2%→中学生44.5%)と「進学先や進路」(小学生33.1%→中学生56.0%)で、20ポイント前後の増加がみられる。また「進学先や進路」に関する悩みを保護者の希望進学段階別にみたところ、小学生は「大学・大学院まで」と回答した保護者が悩みが高いが、中学生では「専門学校・短大まで」と回答した保護者が悩みが高い。保護者の悩みの種類や内容は、保護者の進学希望段階によっても違いがありそうだ。

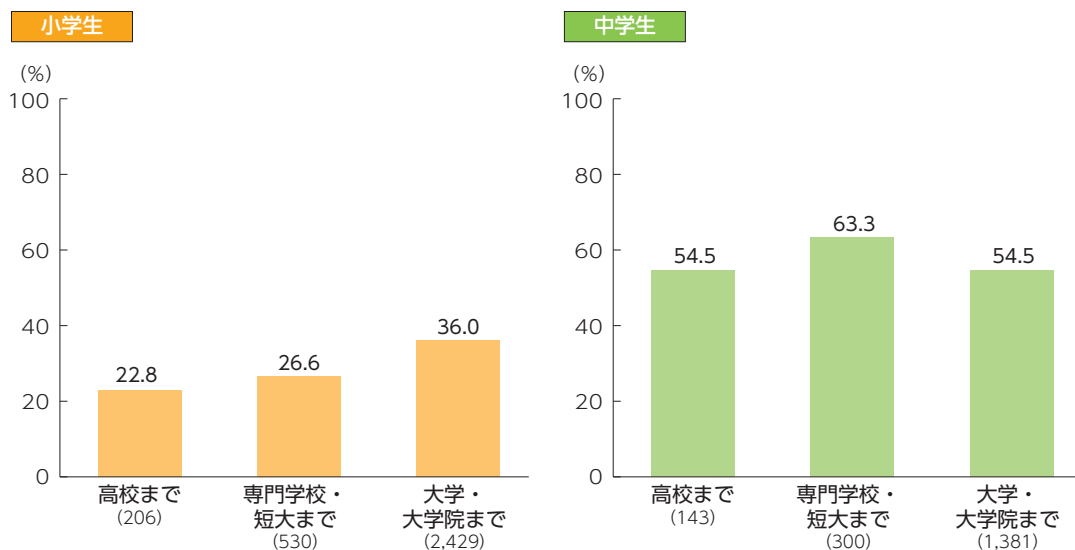
Q お子さまの学習に関して、次のような悩みや気がかりはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図9-1 子どもの学習に関する悩みや気がり(学校段階別)



注) 複数回答。

図9-2 「進学先や進路」に関する悩み(保護者の希望進学段階別・学校段階別)



注1) 「高校まで」は保護者調査票で保護者が希望する子どもの進学段階について「中学校まで」「高校まで」と回答した人、「専門学校・短大まで」は「専門学校・各種学校まで」「短期大学まで」と回答した人、「大学・大学院まで」は「大学(四年制大学)まで」「大学院(六年制大学を含む)まで」と回答した人。

注2) ()内はサンプル数。

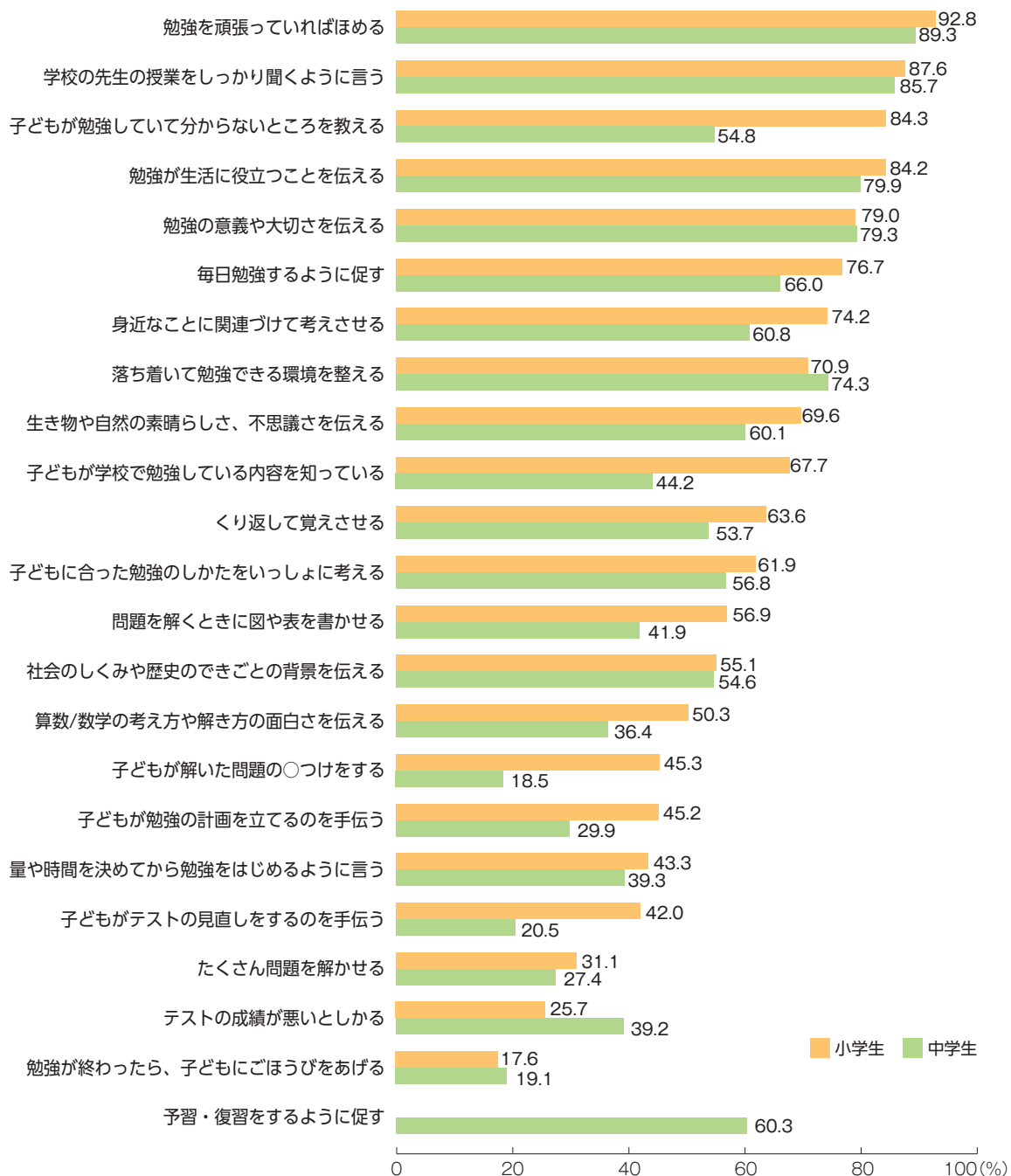
9 保護者の関わり—子どもの学習への関わり—

小学生から中学生にかけて、子どもの学習への直接的な関わりは、減少傾向。

保護者の子どもとの関わりの上位は「勉強を頑張っていればほめる」「学校の先生の授業をしっかり聞くように言う」で8～9割（「とても」+「まあ」以下同様）である。小学生から中学生にかけて変化が大きいのは「子どもが勉強していて分からないところを教える」「子どもが学校で勉強している内容を知っている」「子どもが解いた問題の〇つけをする」「子どもがテストの見直しをするのを手伝う」といった直接的な関わりで、20ポイント以上減少している。

Q ふだんのお子さまとの関わりについて、次のことがどれくらいあてはまりますか。

図9-3 ふだんの子どもの関わり(学校段階別)



注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

注2) 「予習・復習をするように促す」は中学生の保護者にのみたずねた。

保護者の子どもへの関わり方(動機づけ支援)は子どもの学習動機づけやその種類に影響している。

小中学生ともに「内発的動機づけ支援」や「同一化的動機づけ支援」をしている保護者の子どもは、それらをしていない保護者の子どもと比べて、「内発的動機づけ」「同一化的動機づけ」によって学習する傾向がみられた。これらの結果から、保護者の関わり方が、子どもの動機づけやその種類に影響していることがうかがえる。

図9-4 保護者の関わりと子どもの動機づけとの関係(学校段階別)

		子どもの内発的動機づけ(3段階)								
		小学生			中学生					
		高群	中群	低群	高群	中群	低群	(%)		
内発的動機づけ支援の有無 【保護者の関わり】	社会のしくみや歴史のできごとの背景を伝える	あてはまる (1,887)	33.1	42.7	24.3	(1,061)	31.2	49.0	19.8	
		あてはまらない (1,508)	25.5	43.7	30.8	(844)	23.9	48.1	28.0	
	算数/数学の考え方や解き方の面白さを伝える	あてはまる (1,724)	34.9	44.4	20.7	(704)	35.2	47.0	17.8	
		あてはまらない (1,674)	24.4	41.8	33.8	(1,202)	23.7	49.6	26.7	
	生き物や自然の素晴らしさ、不思議さを伝える	あてはまる (2,382)	31.9	43.5	24.5	(1,166)	29.9	47.7	22.4	
		あてはまらない (1,017)	24.5	42.2	33.3	(740)	25.0	50.0	25.0	
		子どもの同一化的動機づけ(3段階)								
		小学生			中学生					
		高群	中群	低群	高群	中群	低群	(%)		
		同一化的動機づけ支援の有無 【保護者の関わり】	身近なことに関連づけて考えさせる	あてはまる (2,515)	40.3	28.9	30.8	(1,175)	38.7	32.9
あてはまらない (855)	34.2			25.5	40.4	(712)	31.9	31.6	36.5	
勉強が生活に役立つことを伝える	あてはまる (2,854)		40.4	28.3	31.3	(1,541)	37.4	32.6	29.9	
	あてはまらない (516)		29.8	26.6	43.6	(345)	30.1	31.6	38.3	
勉強の意義や大切さを伝える	あてはまる (2,677)		41.2	28.2	30.6	(1,531)	37.8	32.1	30.2	
	あてはまらない (693)		29.3	27.3	43.4	(357)	29.1	33.9	37.0	

注1) 「内発的動機づけ」「同一化的動機づけ」の用語解説はP.15を参照。

注2) 「あてはまる」は保護者の子どもとの関わりについて「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した人、「あてはまらない」は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した人を示している。また無回答・不明を除外して数値を算出している。

注3) 子どもの内発的動機づけ(3段階)：子ども調査票・勉強する理由について「勉強することが楽しいから」「新しいことを知ることができてうれしいから」「問題を解くことがおもしろいから」の3項目から得点を算出し、得点分布が「高群」「中群」「低群」で均等になるように3分割した。
 子どもの同一化的動機づけ(3段階)：子ども調査票・勉強する理由について「ふだんの生活に役立つから」「世の中に役に立つ人になりたいから」「自分の夢をかなえたいから」「将来いい高校や大学に入りたいたいから」「将来安定した仕事につきたいから」の5項目から得点を算出し、得点分布が「高群」「中群」「低群」で均等になるように3分割した。

注4) ()内はサンプル数。

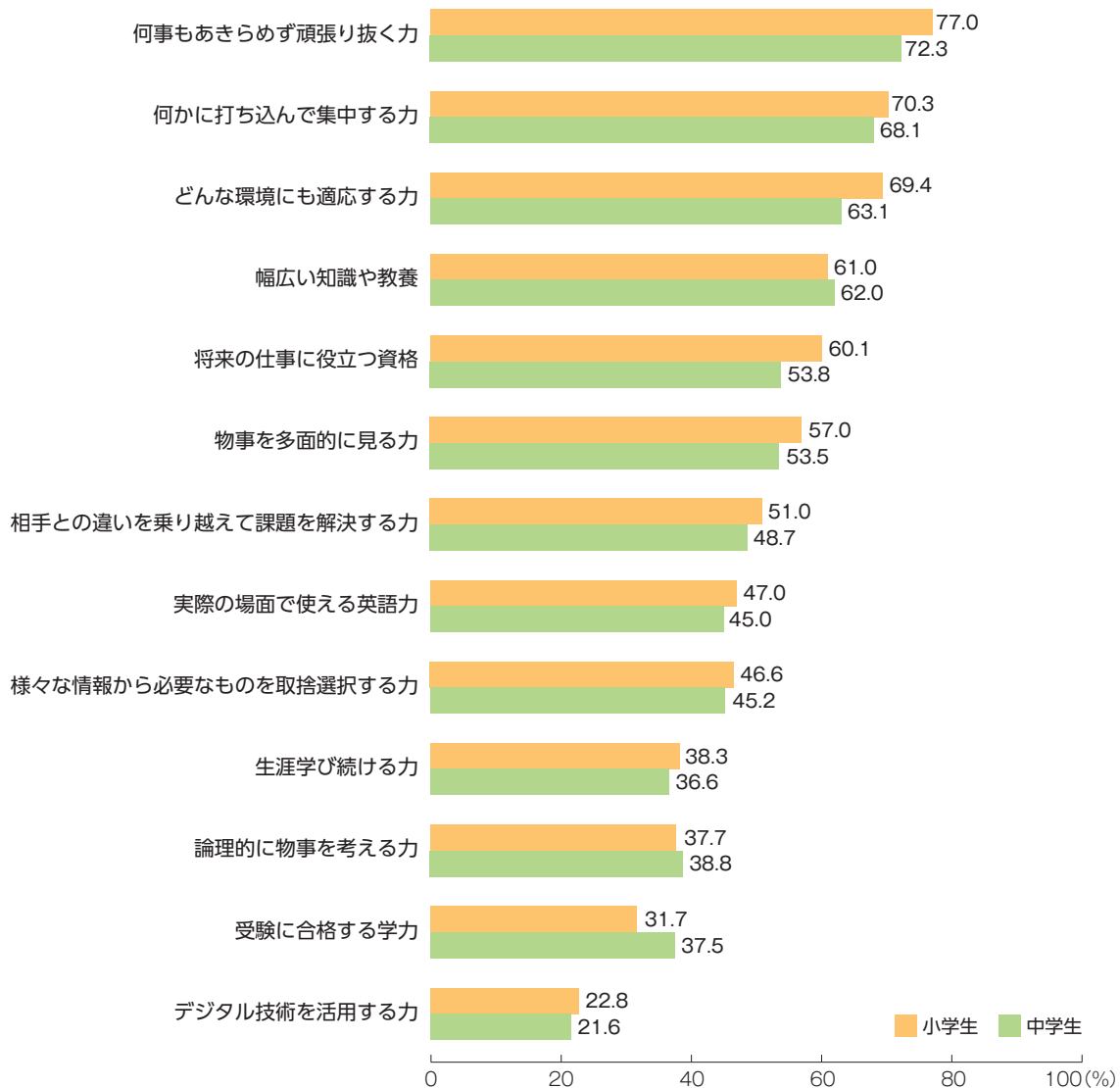
9 保護者の関わり—子どもに身につけてほしい力—

保護者が子どもに身につけてほしいと思う力の第1位は、「何事もあきらめず頑張り抜く力」。

小学生と中学生で身につけてほしい力に大きな違いはみられない。保護者が子どもに身につけてほしい力の第1位は、「何事もあきらめず頑張り抜く力」で7～8割弱（「とてもそう思う」以下同様）。次いで「何かに打ち込んで集中する力」「どんな環境にも適応する力」が続く。「実際の場面で使える英語力」や「生涯学び続ける力」「受験に合格する学力」は3～4割台である。

Q あなたはお子さまに次のような力を身につけてほしいと思いますか。

図9-5 子どもに身につけてほしい力(学校段階別)



注) 「とてもそう思う」の%。

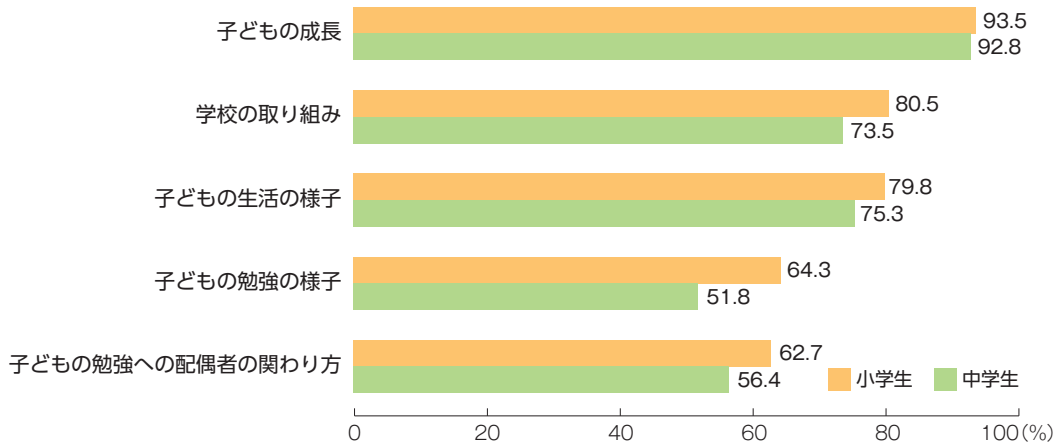
「子どもの勉強の様子」に対する保護者の満足度は小学校から中学校にかけて低下している。

小中学生ともに満足度が高かったのは「子どもの成長」で9割である。次に「学校の取り組み」「子どもの生活の様子」が7～8割と続く。小学生から中学生にかけて満足度の変化が最も大きかったのは「子どもの勉強の様子」（小学生64.3%→中学生51.8%）であった。

また保護者と子どもの努力に対する意識「誰でも努力すれば勉強が得意になれる」の学年変化をみたところ、子どもの意識は学年があがるにつれて減少しているが、保護者の意識はほとんど変わらない。

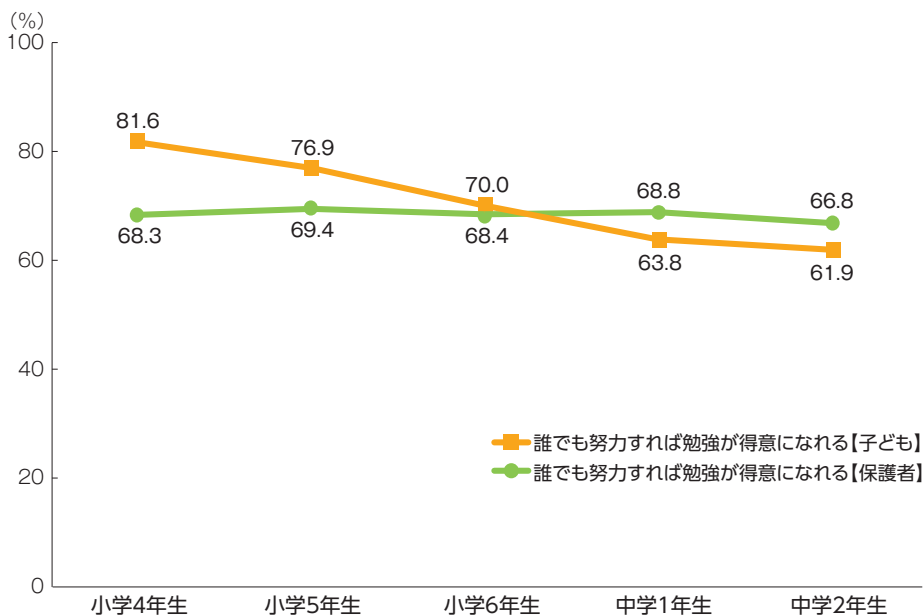
Q あなたは以下のことについて、どれくらい満足していますか。

図9-6 保護者の満足度(学校段階別)



注) 「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

図9-7 勉強に対する意識「誰でも努力すれば勉強が得意になれる」(親子別・学年別)



注1) 「誰でも努力すれば勉強が得意になれる」は、「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 無回答・不明を除外して数値を算出した。